



おごおり

第429号

日本郵趣協会 小郡支部

第35巻12号 2025. 12. 1



富士山・Mt. FUJI

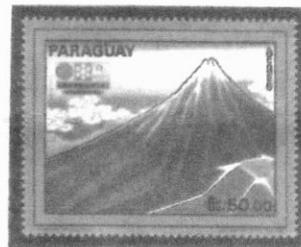
絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画:宮嶽三十六景より

山下白雨

通常“颯風快晴”と共に赤富士の名によって知られ、三役の一枚である。題名に山下白雨とあるから、富士の裾野は静然と夏の雨が降っているのであろう。ただ富士の下部を暗かつ色とし、はげしい雪のいなずまを描いて白雨を暗示させようとする。

雲上の富士は下界の激しさを知らぬ顔に静かな姿を見せているが、この象徴的手法は、頂上の赤富士の印象をいっそう強めている。山のかなたにわき上がった雷雲も、夏の日の印象を強烈に表現している。“颯風快晴”を「静」なる富士とすれば、これは山の「動」なる姿であろう。



北斎100年祭記念(切手趣味通関の小型シートに赤紫加刷)

葛飾北斎画「富嶽三十六景」

松井恒雄

富士山の描かれた切手を蒐集していますが、その中から絵画に描かれた切手の内で葛飾北斎が描いた「富嶽三十六景」の切手を整理した作品を展示いたします。作品は切手・初日カバー・記念はがきなどを使ってリーフを作成しました。



富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より

相州梅沢左

夜明け前の富士風景であろう。東雲の一部をかつ色に染めて夜明の太陽を予想させるほかは富士も山も縁と藍の二色で、精爽の氣を画面にみなぎらせてほとんど藍摺に近い。この夜明け前の富士はいわゆる青富士であるが、青富士は夕暮の富士を描いた「御厨川岸より両國橋夕陽見」と「甲州三島越」以外ない。御厨川岸圖に比して梅沢左の青富士は堂々たるもので、富士の姿に関するかぎり、二枚の赤富士に比肩すべき美しさをもっている。





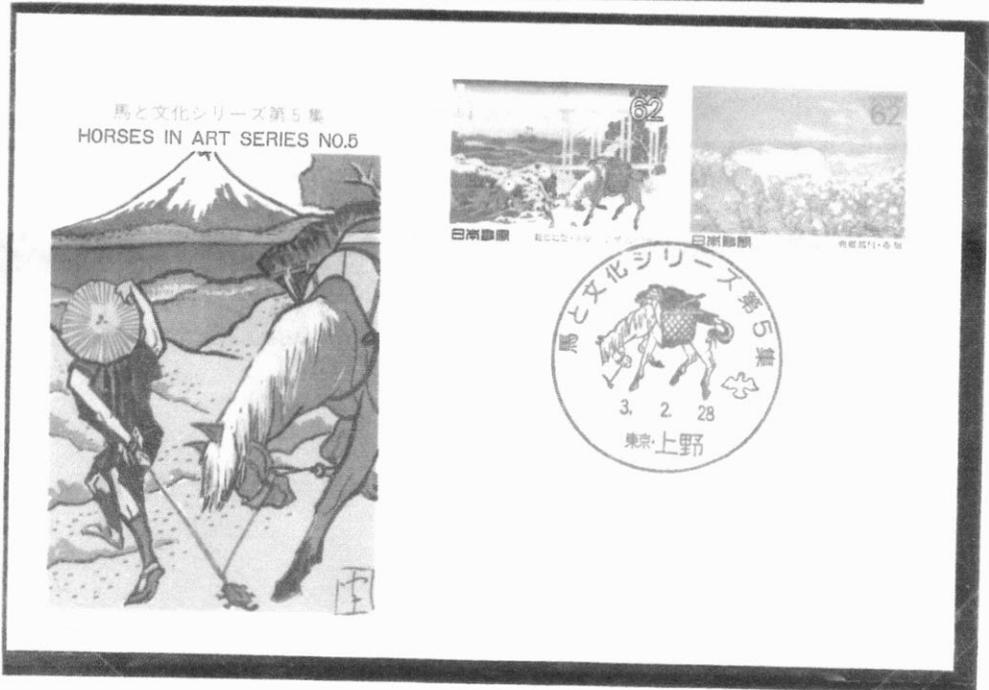
富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より
武州千住

北斎の“武州千住”はこの宿はずれから荒川をへだてて富士を見る図である。手前の堀の土手には二人の男が釣りを楽しんでいる。そのうしろの水門の前に馬と馬子。静かな水郷風景である。草を積んだ疲れた馬は首うなだれてこの堀をとおりかかる。首をあげた馬子の目に、富士が突然美しい姿をあらわす。釣人の一人も、竿を忘れて同じように富士を見ている。のどかな水郷風景をたてによぎるものは水門の柱のかけからのぞいている。

北斎一流の構図のとり方である。荒川の水も暗く、夕暮を暗示するかのようである。



馬と文化シリーズ(初日カバー・3. 2. 28・上野)



富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より

凱風快晴

“山下白雨”と“神奈川冲浪裏”の2枚と共に最も有名な作品である。古来富士の姿を描いた名画は多いが、赤富士の印象をこれほどまで明快に描いた作品はない。

赤富士は早朝か夕方に見える太陽のたわむれであるが、空にうね雲のある時にかぎってこの赤富士があらわれるというから、北斎もまた実際に燃えるような富士を見たに相違ない。通常は頂上近くのみが赤く映ずるが、雲のいたずらで、全山燃えるようになることが時々ある。うね雲が空一面にひろがり、無限の距離に遠のいて行く。

富士はその青空をバックにくっきりと赤い姿をあらわす。麓の青い草原の色も美しい。青と赤と茶2色の線だけでこの作品はでき上がっている。



第49回列国議会同盟会議記念(初日カバー・35. 9. 27東京)

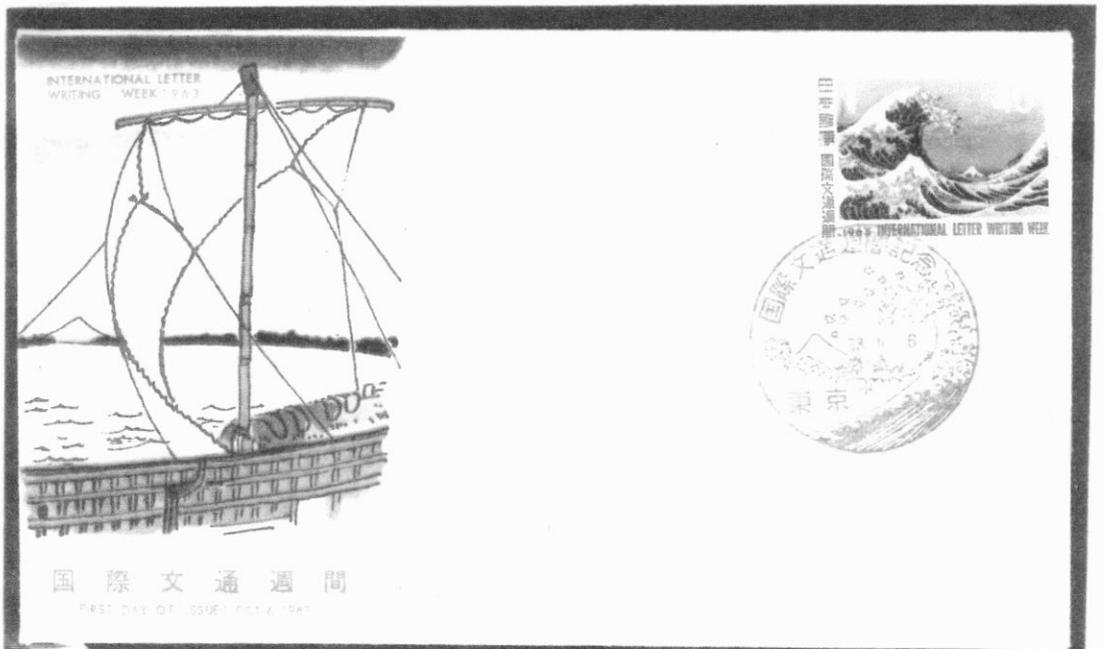


富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より
神奈川沖浪裏

富嶽三十六景組物中、屈指の名作といわれ、二枚の赤富士と共に三役に擬せられている。船を頭からひとのみにするばかりに大きくくずれおちる波頭、その波の間から富士は静かに顔をのぞかせる。動と静とのみごとな対比である。この奇抜で思い切った構成はいかにも北斎らしく、彼にしてはじめて考え得る構成であろう。



国際文通週間記念(初日カバー・38. 10. 6, 東京)



富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より

甲州石班沢

この図は鯉沢あたりを描いたものと思われる。甲府から身延山みちを五里ばかり南下する甲府盆地の西南端の町、鯉沢に出る。蘆崎から青柳をへて五里の里程である。北斎は石班沢と書いているが、石班沢という所はなく、また、どうして石班沢をかじか沢とよむかわからない。釜無川と笛吹川が青柳あたりで合流し、富士川となって山静の山々を流れ、駿河湾にそそぐ。昔は鯉沢は鯉沢港と称し、ここから身延を通して駿河の岩淵に出る水路があり、交通の要地であった。巨大な岩の上で漁夫親子が網打つ姿を描いたもので、遠く富士が見える。



国際文通週間(初日カバー・42. 10. 6・甲府)